

LINN LP-12 の再構成(28)
—TANNOY Autograph MINI での試聴—

1. 始めに

前報(27)のスピーカーJBL4350A に替えて TANNOY Autograph MINI での LINN LP-12 の軸受けを新規のカルーセルキットに交換することを受けてその効果を確認しました。

2. LINN LP-12 の再構成の実施内容と試聴方法

改造の実施内容は、前報(23)で述べたとおりです。

カートリッジは、My Sonic Signature Gold で、接続に関しては、ZANDEN Model 120 の活用(33)同様、下記のとおりとします。すなわち、アンバランス/バランス変換プラグを用いて BACU-2000 経由で Model120 にバランス入力します。

今回も P&G のフェーダーに替えてパッシブアテネーターの TruPhase を使用し、RCA 入力→RCA 出力とします。なお、AACU-1000 は TruPhase の入力側と出力側にセットします。

LINN LP-12→(フォノケーブル)→(アンバランス/バランス変換プラグ)→(BACU-2000) →Model120(バランス入力端子→アンバランス出力端子)→(アンバランスケーブル)→(AACU-1000)→TruPhase→(AACU-1000)→(アンバランスケーブル)→PX-25 シングルアンプ→TANNOY Autograph MINI

なお、LINN LP-12 の再構成(22)で報告しましたように LP-12 の電源を交換し、外付けとしています。また、LP-12 の軸受けをカルーセルに更新しています。

最後に聴いたのは、TruPhase の導入後で、[TruPhase の導入\(16\)](#) で報告しています。その後は前報(24)のような改造を行っています。

使用した盤は、前報(24)でも使用した次のものです。

Deutsche Grammophon 483-6927/6928/6929

J.S.Bach Sonatas & Partitas

Nathan Milstein

ドイツグラモフォン MG9551

三つのピアノソナタ (選帝侯のソナタ)

ゲザ・アンダ (ピアノ)

LONDON KLJC-9180/9184 (RTI/キングレコード)

リヒャルト・ワーグナー：ワルキューレ全曲

ゲオルグ・ショルティ指揮ウイーンフィル

CBS SONY 25AG 407

津軽三味線

高橋竹山

Riverside Rlp9407

Bags meets Wes

3. LINN LP-12 の再構成後の試聴結果

ZANDN Model 120 の設定は前報(24)と同じ条件設定です。

Deutsche Grammophon 483-6927/6928/6929 の.Bach の Sonatas & Partitas は、この組み合わせの最も得意とするジャンルで、TANNOYらしい艶のある弦の響きが魅力的です。

ドイツグラモフォン MG9551 の選帝侯のソナタは、Autograph MINI のユニットや躯体のサイズからしてスケール感を求めるのは無理ですが、意外にバランスのとれた小気味よいピアノソナタを聴かせてくれます。

LONDON KLJC-9180/9184 のワルキューレは、この場合も、スケール感や低域の迫力を期待するのは無理ですが、ミニオーケストラとして聴いていくと、ボーカルなどはそれなりの表現力を示してくれます。

CBS SONY 25AG 407 の高橋竹山は、予想外に立ち上がりの良い音を聴かせますし、太棹らしさも出ています。

Riverside Rlp9407 の Bags meets Wes は、この組み合わせの苦手とするジャンルで、ヴィブラフォンの音色は魅力的なところがあるものの、ベースの音階はもちろん、全体のリズム感の表現は苦しいところがあります。

4. まとめ

LINN LP-12 のカルーセルキットへの更新の効果を TANNOY Autograph MINI で確認しました。

以上